

令和6年度 荒浜小学校 学校経営方針

校長 笠原 道宏

1 教育目標 学ぶ子 高まる子 きたえる子

2 目指す子どもの姿

- | | | |
|------|-------------------------|---------|
| (知育) | 自分の考えをもち、いきいきと表現する子 | … 学ぶ子 |
| (徳育) | 他者と適切に関わって、互いのよさを伸ばし合う子 | … 高まる子 |
| (体育) | 自分の生活、健康、安全を正しく維持できる子 | … きたえる子 |

3 目指す荒浜小の姿

◎学校は子どもたちにとって楽しいところ。夢中になれることがあるところ。

わくわく感が感じられる。笑顔が自然に出てくる。

◎一人一人のよさが認められ、安心して過ごすことができるところ

個性が認められる。自分を素直に表現できる。

◎仲間とともに成長するところ

一人では成長できない。仲間がいるから高まることができる。

4 年度の重点目標

「かかわりあい ささえあい みとめあい ～ひとにやさしく～」

5 重点取組

(1)「学ぶ子」の実現に向けて

- ①子どもは自ら学び続ける存在である
- ②学ぶ過程の重視
(「問い」が生まれる授業、自己選択・自己決定……自分で決める、実践する・やってみる)
(かかわりが生まれる授業。みんなで決める。認め合う。)
- ③個別最適な学びと協同的な学びをバランスよく
- ④教科では焦点化して、生活・総合ではダイナミックに……全ての学びで資質・能力を育てる

(2)「高まる子」の実現に向けて

- ①子どもは誰もがよくなりたいと願っている。
- ②自己有用感を育む。(日々の生活のちょっとした場面を評価して・他者とのかかわりの中で)
- ③互いを尊重し、安心して自分を表出できる環境づくり(道徳、特別活動)
- ④人権感覚を磨き、正しい価値観や生き方を学ぶ同和問題学習、道徳科授業の充実
(法理解、道徳教育、インクルーシブ教育、最悪を想定して対応、「諭す」生徒指導)

(3)「きたえる子」の実現に向けて

- ①運動のおもしろさ、心地よさ、自分のからだへの気付きを大切にする。
(健康観察、生活習慣)
- ②メディアコントロール力を高める指導の工夫
- ③適切な時間管理意識を高める「自分で決めて自分で続ける」意識を育てる

6 わたしたち職員が大事にしたいこと

【その1】 子どもに愛情を注ぎ続けること、大好きでいること

- 子どもが不十分に見えるのは、その子が悪いのではなく、良くなる過程のまだ途中であるだけのこと。これからの環境・指導次第でどうにでも変わっていく。その力ギは私たちが握っているという意識。
- その子の成長は、私たちの指導技術ではなく、私たちの心のもちようにかかっているということ。
- 今変わらなくてもよい。いつか分かってくれる、いつかできるようになる、いつか変わるときがくる。子どもの力を信じて、愛情をもった指導を続けたい。
- あなたたちが大好きだよということを、時々でいいから子どもへ伝えてほしい。

【その2】 「子どもにとって教職員が一番の教育環境」

- 子どものモデル（言葉遣い、時間を守る、服装 等）
- 自分の当たり前を疑ってみる謙虚さ
- 同僚の声に耳を傾ける姿勢

【その3】 「“いのち”を守る」

- すべての教育活動で意識する。いのちは突然なくなってしまうこともある。
- 危機管理のアンテナを高く。迷ったら動く。一瞬の判断でためらわない。
- 組織対応（報・連・相）

【その4】 和と笑顔がある職員集団

- 私たち全員で、全校の子どもたちの成長にかかわっているという意識で。
- 仕事は変わってやれないかもしれないが、つらさは共感することができる。職員の苦しさをキャッチできる仲間であらう。誰かをひとりぼっちにしない。
- 感謝を形に。（声掛け、気遣い、一緒に動く 等）
- 笑顔で。楽しく。そこから職員の輪も生まれる。

【その5】 保護者・地域は子育てのパートナー

- 保護者に寄り添った対応（共感的理解、定期面談 等）
- 地域人材の積極的活用

【信頼される学校の基盤となること】

- 非違行為をしない、させない、許さない（飲酒運転、速度超過違反、交通加害事故、個人情報紛失・流出、信用失墜行為、体罰・暴力行為、性非行、ハラスメント等）
- ワークライフバランス（健康第一、家族・私生活を大切に、休暇の有効活用）